地域の感染状況に合わせて対応しよう

新しい生活様式を踏まえた面会のポイント

面会に来る方へお願いすることや面会中の留意点をおさらいしておきましょう。

面会者へのお願い

- 面会当日は検温をお願いしましょう。
- 面会者が濃厚接触者である場合や、面会者や同居家族に発熱や咳、のどの痛みなどがあり、感染が疑われる場合は面会を断りましょう。
- 面会者が施設へ入る際には、手洗い・手指消毒を行ってもらい、マスク着用をお願いしましょう。
- 施設で感染者が発生した場合に備え、来訪者の氏名、日時、連絡先を記録しておきましょう。

体調不良の場合は面会を断る

氏名や連絡先を記入

手洗い、手指消毒、マスクの着用

面会中に留意すべき点

- 面会時には十分な換気を行いましょう。
- 面会はできるだけ少人数で行います。
- 面会場所では大声での会話は控えてもらいましょう。
- 飲食はできるだけ控えましょう。

十分な換気

大声での会話や飲食は控える

できるだけ少人数で

面会後の対応

- 面会者が、面会後一定期間以内に発症もしくは感染がわかった場合は、施設への連絡をお願いしましょう。

高齢者施設職員向け

面会再開のポイントを動画でわかりやすく解説しています

対面の面会を行う際の参考となるよう、施設における面会時の感染対策方法や現場の工夫等を紹介しています。また、医師による面会のメリットや注意すべきポイント等の解説もしています。

詳しくはこちらから

https://youtu.be/CV8dJauQ1BU

ひと、くらし、みらいのために
厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/index_00014.html

高齢者施設職員向け

会いたい人に会える日を

～高齢者施設における面会再開に向けた取り組み事例～

高齢者施設職員が知っておきたい面会再開のメリット

小坂 健先生

おさか・けん／東北大学大学院教授。1990年東北大学医学部卒業。1995年東京大学大学院医学系研究科修了。2020年2月より厚生労働省新型コロナウイルス感染症クラスター対策班メンバー。

対面面会での家族との交流は利用者のQOLに好影響

長期間、高齢者施設利用者が家族に面会ができない場合、物忘れが激しくなったり、認知機能の低下が起こります。気持ちが沈むだけではなく、不安から食欲がなくなり低栄養になってしまうこともあります。また、利用者に限らず、家族も利用者と会えずに気分が落ち込んだりと、面会できないことで影響が出ます。

面会は利用者の基本的権利であり、家族との交流はQOL（生活の質）に影響を与えます。感染防止対策に留意し、感染リスクを下げながら、可能な限り、対面面会を実現していきましょう。家族と対面で面会することは、利用者にとって、例えば以下のような良い影響が期待されます。

1. 我が子を思い出せなかった利用者が、我が子をきちんと認識できるようになった
2. 家族に会えるという期待から、利用者の気分が高まっていく

ひと、くらし、みらいのために
厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

1 withコロナ下での高齢者施設における面会について

コロナ禍になり、面会が思うようにできない状況が続きましたが、
ウィズコロナ下の現在では、面会方法はどのように変化したのでしょうか。
施設の実例を紹介します。

Before

全ての面会が一時中止

- 全ての対面面会を中止
- 窓越し面会
- タブレット端末などを用いたオンライン面会

面会を制限せざるを得ない状況では、施設側と家族とのコミュニケーションも難しくなっていました。また、タブレット端末を用いたオンライン面会では、職員の負担も増えました。

After

対面面会を再開

- 感染状況を見つつ、基本的には対面面会を実施
- 希望する家族にはオンライン面会も継続

地域の感染状況に留意しつつ、感染対策を行った上で、対面面会が再開されています。オンラインでの面会も引き続き実施しています。

2 対面面会を再開した施設での取り組みや工夫

ウィズコロナ下で対面面会を再開した施設での感染対策や面会の実施方法を紹介します。
厚生労働省新型コロナウイルス感染症クラスター対策班の一員として活躍している、
東北大学大学院の小坂健先生による留意点も参考にしてください。

check!

熱だけではなく、面会者や同居家族にのどの痛みや全身の倦怠感などの体調不良がある時は面会を控えてもらいましょう。

ポイント1

熱がなくても風邪症状に注意

面会者には、面会時間を通じてのマスク着用、面会前後の手指の消毒、面会前の検温をしてもらいます。また、面会者が濃厚接触者ではないかや当日の体調について、確認しています。

ポイント2

面会時は必ず換気をする

面会場所は、すぐ近くに窓があるところを選びましょう。季節を問わず、対面面会時は窓を開けて、しっかりと換気をしています。

check!

夏や冬は窓を閉めがちですが、面会時と面会の前後で換気を行いましょう。

ポイント3

家族と施設のコミュニケーション

施設への来訪が減ったことにより、家族からの連絡が少なくなる傾向も見られます。家族と施設との距離が遠くならないように、こまめに連絡を取るようにしています。

ポイント4

面会対応時の職員の配置

現在は面会対応時の職員の負担が増えています。面会の対応にあたるのは、介護職員だけではなく、他職種の職員も協力して、負担が集中しないよう調整しています。

ポイント5

職員の目の届く場所を面会スペースに

以前は、プライバシー保護に考慮して個室での面会を実施していましたが、職員の目が届くような場所での面会に切り替えました。

取材／介護老人保健施設 せんだんの丘（宮城県）、高齢者複合施設 サクラーレ福住（新潟県）

対面面会 再開後 の施設 職員と入居者家族の声

施設職員

窓越し面会での苦悩から対面面会再開へ

終末期の入居者と家族が、窓越し面会しかできないという状況に心が痛みました。「コロナ禍だから仕方ない」で済ませていいものかという思いから、面会再開に踏み切りました。

施設職員

施設と家族の距離が遠くならないように

以前は家族に連絡する場合は良くないことがあった時が多かったのですが、今はこまめに利用者さんの日頃の様子や良かったこと、できるようになったことも合わせて伝えるよう心掛けています。

入居者家族

面会で訪問すると施設の雰囲気も伝わる

コロナ禍のため、ここしばらくは家族の顔を見て会話ができなかったので、面会が再開されて、とてもうれしかったです。面会だと、施設の雰囲気がわかるのも良かったですね。

入居者家族

自分の目で家族の元気な姿を確認

今回、対面で15分程面会することができました。家族が健康で元気でいる姿を、自分の目で確認できるのはありがたいですね。

入居者家族

1カ月に1度でも対面で会えるとうれしい

利用している施設では、対面面会は事前の予約が必要で、1カ月に1回程度。スケジュール調整が必要ではありますが、会えるのはうれしいですね。本人の顔色が確認できるので安心できます。

小坂先生より

家族に会える期待・喜びで利用者の気分が高まる

面会が再開されたことによって、「週末に家族に会えるんじゃないか」という期待から、利用者の気分が高まっていくといった良い影響も期待されます。